環境を思う。その志を持続可能にするのはユーザー視点から価値を徹底追求する「選ばれる製品」を開発する知恵だ。

「当社の製品価格は安くはない」と橋本浩之社長。〝天然コットン100%〟や〝生分解性素材〟など環境にやさしい素材にこだわり、製法にもこだわるからだ。「だが、クロス自体は高くてもお客さまの生産性を高めるお手伝いができるため、人件費を含むトータルコストから採用される」。さまざまな生産現場で活躍するワイピングクロス。シンプルなようで奥が深い世界だ。「当社製品にユーザーの使い勝手を徹底追求した実用性と環境へのこだわりを両立させ続けたい」という橋本社長に、詳しい話をお聞きしよう。

〈interviewer〉
滋賀銀行
取締役頭取 **大道 良夫** 虎姫支店長 **井上 松三**

株式会社橋本クロス
代表取締役社長
橋本 浩之氏（はしもと・ひろゆき）

1963年生まれ。2004年、株式会社橋本クロスの代表取締役社長に就任、現在に至る。関連会社の有限会社オーガニックの代表取締役も兼務。

価格以上の価値を提供するため製品開発に知恵を絞る

大道●橋本クロスさんが手掛けられている「工業用ワイピングクロス」。これは、半導体製造や金属加工、食品加工、水産加工、精密電子部品製造といったさまざまな〝モノづくりの現場〟で汚れや油・水分を拭き取ったり、生産設備の汚れなどを落とす拭き取り用ウエス（布巾）です。

橋本■1972年に父の橋本丁（初代社長）が脱サラして創業した当初は、輸出用壁紙などの産業資材を専ら手掛けていました。ワイピングクロスを作るようになったのは93年からです。父が以前勤めていた素材メーカーが新しい不織布の生産を始めたところ、大量にロスが発生、当社が安く仕入れてワイピングクロスを作ってみると飛ぶように売れたのがきっかけでした。ところがその不織布の生産が軌道に乗るとロス材料が品薄になって、仕入れ値が一気に10倍にも跳ね上がりました。

大道●当然、御社も相応に値上げせざるを得なかったのでしょうね。

橋本■ええ。値上げすると、まったく売れなくなりました。そんな時、ある納入先から「値段が数倍になっても、それだけの価値がある商品ならば買うよ」と言われたのが転機になりました。価格分の価値を商品に付加するために徹底的に知恵を絞ろう。当社の製品開発への姿勢がこの時に生まれたのです。それ以来、納入先が何に困っているか、どんなクロスを求めているかをキャッチする習慣が身に付きました。良いヒントを与えてくれるのはいつも現場でクロスをお使いの皆さまです。「クロスにいちいち洗剤を含ませて機械を拭くのが面倒だ」との声を聞くと、「ウェットワイパー」を開発。ウエットティッシュの要領で洗剤を染みさせたクロスを次々と引き出せるように工夫しました。「仕掛かり品を人手で拭く作業効率を高めたい」との声に対しては生産ラインに組み込めるテープ状のクロスを開発して拭き取り作業を自動化、人件費が低減できる上に生産速度も高めることができました。

井上●なるほど。クロスの工夫次第でお客さまの生産コストや生産性を改善できるわけですね。

橋本■ある大手工場ではライン内へクロスを組み込んで拭き取り作業を自動化したことで、年間5億円相当の改善効果を得られたそうです。

素材も製法も環境にやさしい〝天然コットン100%〟

大道●使い捨ての工業用ウエスは価格の世界だと考えていましたが、御社の製品はたとえ割高でも生産効率などトータルで考えると採用したいと思わせる価値がある。だから価格競争に呑み込まれないわけですね。理屈はシンプルですが、進めていくのはそう簡単ではありません。一般には、原料が高くなったら質を落としてでも従来の価格水準を保とうと考えがちでしょう。

橋本■コスト競争をしなかったからこそ今日の当社があると信じています。工業用ワイピングクロス市場は年間500億円規模とされていますが、大規模な設備を持つ大手製紙会社など数社で市場をほぼ占有しているため、シェアだけでみれば当社は小さな存在です。大量に消費されるクロスは年々コスト圧力が増し、価格競争を避けることができないのが現状です。その一方、大手の視野に入らない細かなニーズに対応できる当社のクロスは、コスト競争に陥らずに安定した収益性を保ち続けています。

大道●使う人のニーズを丹念にすくい上げてきた結果、商品アイテムは500にも達するそうですね。ヒット商品やロングラン商品をご紹介ください。

橋本■一番のロングラン商品は天然コットン100%の「ミラクルワイパー」です。綿は高温に強く、不純物の溶出が無いなど優れた性能を持っていますが、問題は原料コストです。綿の中でも最高のアメリカ綿を使用し、医療用の脱脂綿レベルに品質を上げました。原料コストはさらに上がりましたが、品質を認められ、宇宙開発・原子力・半導体・バイオの最先端分野での採用が決定しました。また、「食材に匂いが移らない」と有名料亭でも採用していただきました。

滋賀銀行 取締役頭取
大道 良夫（だいどう・よしお）

優れた実用価値と環境配慮から真の環境商品が生まれる

大道●化学物質を含まないので半導体や精密電子部品などにもうってつけのようですね。生産設備の制御盤を油汚れから守る「制御盤フィルター」もヒットしています。

橋本■この商品は制御盤の換気口等に取り付けて、オイルミストや粉塵から部品を守るフィルターです。ホルダーはマグネットで簡単に着脱でき、フィルターにはミシン目が入っているので汚れたらさっと取り替えることができるなど、「現場での使い勝手」をとことん追求しました。フィルター生地には、トウモロコシ由来の生分解性素材のポリ乳酸を使用しています。

大道●「環境にやさしい製品を作る」信念の徹底ぶりを感じます。しかし、環境配慮製品はどうしても割高になるため、なかなか売れずにご苦労されたのではありませんか？

「パルパー」折り機の前でワイピングクロスの説明を聞く

橋本■「環境にやさしい」だけで買っていただけるわけではありません。環境配慮と期待以上の価値を提供しなければ、〝真の環境商品〟ではない。私たちは初めからそう考えてきました。どんなに有意義なものを開発しても普及しなければ意味がないと考えています。制御盤フィルターにポリ乳酸を使用した大きな理由は炎が出にくいことです。火災リスクを減らせる上に、使用後に焼却しても排出物質や発熱エネルギーがきわめて少なくすみます。実用性に優れ、環境に役立つものであれば通常タイプより割高であっても納得していただけます。

社会貢献のための太陽光発電導入が従業員の意識を変えた

井上●サトウキビを絞った後の未利用繊維バガスを混入した「パルパー」も環境配慮製品ですね。

橋本■バガスの混入はパルプ使用量を減らすのが目的です。同時に従来の紙ワイパーより破れにくい特長も付加できました。最近は環境に配慮した当社製品を購入するのが当たり前になってきました。10年前と比べると隔世の感があります。

大道●ここに至るまでには地球温暖化や環境破壊など大きな代償を払いましたが、私たちはもう後戻りできません。「近いうちに生産に要したエネルギーの表示が義務づけられる」と説く人もいます。そんな中で注目したいのが「工場使用量の2倍に相当する」130キロワットの太陽光発電システムを導入された上、オフィスや工場、倉庫まですべてLED照明に切り替えられるなどの省エネ施策も進める御社の取り組みです。

橋本■太陽光発電システムは2006年にまず20キロワットを導入しました。これは財団法人新エネルギー財団による日照量等のデータ収集のためのフィールドテストに参加したもので、湖北地域でも採算が取れることを実証したいと考えました。次いで今年3月に110キロワットを増設。同時に、蛍光灯をLED照明に切り替えたり、壁に断熱材を、窓には遮熱フィルムを採用したりするなど太陽光発電の導入効果を最大化する取り組みに着手しました。また、工場では消費電力の大きな大型集塵機を小型のものにも取り替えました。

大道●当行も店舗の新改築の際は太陽光発電システムを導入しています。最近新設した草津西支店は一般よりも大きな店舗ですが、発電規模は10キロワット程度です。御社のシステムがいかに大規模か想像できます。日本の企業や工場が電力コスト増に苦しむ現在、将来に備えた投資だと思いますが、それ以上に「従来の電力使用のあり方」に一石を投じられた印象が強いですね。

橋本■私は以前から既存の電力形態に疑問を抱き、「エネルギーを購入せずに全量を自社で賄う」のが夢でした。太陽光発電が普及すれば、世の中は変わる。太陽光発電の導入で買電によるコスト削減も見込めますが、それ以上にうれしいのが従業員の意識の変化です。「社会貢献する企業の一員なのだ」とのプライドが育って、日々の省エネ活動に自発的に取り組むようになりました。業務への姿勢にも良い変化が現れています。

大道●太陽光発電で従業員さんの気持ちや姿勢まで変わるとは、素晴らしいですね。さらに、災害時には地域へ非常用電力を供給することも検討中とか。また、中国の業務を国内へ戻すことでも地元の雇用機会創出に貢献されていますね。

不織布のロールを裁断・折り加工する加工機、左から大道頭取、橋本浩之社長、井上支店長

オイルミストから電子部品を守る「制御盤フィルター」

中国での実体験から気付いた「国内へ目を向け直す転機」

橋本■その背景は中国人ワーカーの気質の変化です。一人っ子政策世代には以前のようなハングリーさがなく、成功への執着も薄い。それが中国でモノをつくることに転機を感じるようになったきっかけです。そこで滋賀の地元で話を聞いてみると労働意欲は高く、仕事へのプライドも高い。想像以上でした。湖国が人材の宝庫であることを再認識するとともに、「海外への投資より国内投資の方がコストパフォーマンスは高い」と考えるようになりました。滋賀県はレベルの高い人材や優秀な企業も多いですから、うまくマッチングできれば海外へ目を向ける必要はないと私は思っています。求める側と求められる側をつなぐ〝かけはし〟の役割を滋賀銀行さんにぜひお願いしたいですね。

工場で使用する2倍の電気を発電する130kWhの太陽光発電システム

大道●それこそが当行の使命です。それにしても中国人の気質変化は興味深い話ですね。今後、「国内でのモノづくりへの回帰」へ転換するきっかけになるかもしれませんね。最後に将来への展望をお聞かせください。

橋本■国内でのモノづくりの停滞は当然ワイピングクロス市場にも影響しています。確かに、大量生産品では大きな影響を受けていますが、生産効率化やコスト節減をサポートする当社の製品にはかえって需要が増えています。クロスの可能性をユーザーと一緒に追求し続ければ必ず未来は開けます。

井上●インターネット市場への出店などで、一般消費者向けの直販に乗り出されたのも新たな動きですね。

橋本■この市場ではオーガニックコットンをコンセプトに、質の高い国内縫製にこだわってベビーウエア、玩具などの製品を打ち出していきたいと思っています。

大道●意義深いお話をお伺いできました。本日はありがとうございました。

品質方針

私たちは不織布業界のリーディングカンパニーを目指して、お客様に満足していただける製品及びサービスを提供します。

- 顧客の要求事項を考慮し信頼性のある品質のよい製品を効率よく製造し提供します。
- 品質マネジメントシステムの適切性を年度毎に見直し、製品の品質向上を目指します。
- 「品質方針」実現のため、この方針に対応した「品質目標」を設定します。
- 「品質方針」及び「品質目標」を全ての従業員に徹底し、全部門全員参加で品質の作りこみを行います。
- 独創的な発想で製造・販売コストを削減し利害関係者に分配します。

株式会社橋本クロス

■資本金/1,000万円　■従業員数/30名
■事業内容/工業用ワイピングクロス製造販売、各種不織布加工、介護用品製造販売
■本社/長浜市南浜町976
■URL/http://www.hashimoto-cloth.com/

Profile

1972年	有限会社橋本クロス設立	2003年	制御盤フィルター発売
1993年	工業用ワイピングクロスの加工販売を開始	2006年	株式会社に組織変更 太陽光発電新技術フィールドテスト事業開始
1995年	「ミラクルワイパー」発売		
1998年	油液吸収製品「オイルパッド」発売	2012年	太陽光発電を130kWhに増設